

2016年2月11日 神戸大学附属中等教育学校授業研究会に行われたP4Cの授業の文字起こしです。中学校3年生の国語の時間にP4Cを行いました。森鷗外『高瀬舟』を読み、問いを立てて議論しています。

生徒 A: えー、今から研究授業を始めます。礼。

一同: お願いします。

生徒 A: 着席。

(ゆっくりと着席後、中川、黒板を指差す)

生徒 A: えー、主題とねらいは、主題が「読解から対話へ」で、ねらいが「高瀬舟について対話し、意見の理由や根拠を明確にすることで読解を深めることができる」となります。今回議論する問いですけど、「意思を考える力が欠如した人は、安楽死させるべきか」。で、これについてまずは解説。Bさん、お願いします。

(チャイム)

生徒 B: えっと、自分はこの問いの発案者なんで、最初に補足したいと思います。私がなんでこういう問いを考えたかという、自分の祖母が認知症、アルツハイマーを発症して。で、そのときはじめは、同じことをくり返したり、忘れ物が多くなったりするだけだったんですけど。その後、まあちょっと、どんどん病気が進行していくにつれて、叫んだり、暴れたり、いろいろ拒絶していったり、家から出たがったり、時にはなんか「死にたい」とかいうことを大きい声で言うようになったことがあって。で、その時の出来事が、すごい自分にはショッキングで、鮮明に残っていて。

で、ふと、この問いを考える時間に思いついたのが、「意思を考える力が欠如した人は、安楽死させるべきか」という問いで。で、えっと、まあ私は、そういう祖母の経験が、祖母が病気を発症したっていう経験があるんで、「意思を考える力が欠如した人」っていうのを聞いて、まあ認知症の人とか、アルツハイマーの人っていう方々が、自ら死を望んだ時にどういう対応をするか、というのを考えてしまうんですけど。他の人が聞いた時に、どういう状況を思い描いて、どうするべきかっていう考えを聞きたいなと思ってこの問いにしました。

生徒 A: ありがとうございます。えっと、「安楽死」の定義だとか、「意思を考える力が欠如している方」とか、そういうところは結構、議論つつこんでけるんじゃないかなと。

まあ簡単に、なんとなく僕の意見を言わしてもらおうと。まあ前にこいつ [隣の生徒を指で示す] が言ったことなんですけど、「安楽死」っていうのは、その人自身が、ここで言うように「死にたい」っていうのを自分で決めて、死ぬ手伝いを医師とかにしてもらおう。そういうものだと前にも先生からもらった女性の記事で思ったんですけど。「意思を考える力が欠如している」って、そういうふうに簡単に言えるものでもないし、さらに「安楽死」させたほうが幸せなん

かってそういうところではまあ。その人が死にたいとか思っている、そういうのを俺たちが考えて勝手に、「安楽死」を、殺していいものなのか、とかいうのは思いました。

他になんか意見ある人はいますか。意見ある人お願いします。

生徒 C: 僕の問題点は、まず「自分の権利がどこまではたらくのか」っていうふうな問題に繋がっていくと思うんですけど。

自分の、個人個人には人権があるから、自己決定権とかもあるし、医者と話合っって医療方針とかを決めてということもあるけど。最後に「死ぬ」ということを自分で決められるのか決められないのかというのは、どこまで人権がはたらくのかな、というふうに僕も感じてて。

他のことは全部自分で決められるのに、死ぬ瞬間だけは自分で決められないっていうことも、僕としてはおかしいのかな、というふうに思うし。最後の死に方っていうのは結構重要だと思うので、それを苦しんで、その意思を、自分の意思をなくしてまで、ずっと苦しんでる中で生きてるのも本人としては辛いんじゃないかなと想定できるし。その「意思を欠如してる」ってことは、たぶん自分が我慢をしたりだとか、他の人に迷惑をかけないようにっていうふうな力もちょっと落ちてると思うんで、もうそういう面では自分の本心というか、本当に思ってることをそのまま口にしてるような状態が、たぶん「意思を考える力が欠如してる」状態かなというふうに思うから。もしその人が「死にたい」と言ったんなら、本当にその人は「死にたい」って言ってるんだろうし、そう思ってることを口にしてるんだろうと思うから。それを家族が無理矢理止めて、で延命治療して、っていうのも、まあそこも悩みどころだなあと思うから。また身近な人で経験がある人もいると思うので、そういう意見も聞いてみたいと思います。

生徒 D: 一応そういう感じの。重い経験はないんですけど。ていうか、なんかもう、あの、なんていうか、意思が「考える力が欠如した人」が本音を言うかっていうと、違うと思って。ただ目の前の苦しみから逃げたいから、それは「死ぬ」っていうことだけをくり返してるから「死にたい」って言うので。後先を考えずに。あ、考える力がないから、後先考えずに、合理的な自分の最終的な、自分自身の判断ができないから、ただ目の前から逃げてるっていう感じだから。本当にその人の本音か？って言われたら、たぶん違うと思います。

生徒 E: 今 D 君が「目の前のことから逃げてるだけ」っていうふうに言ってくれたんですけど。あの（笑）、今その「意思を考える力が欠如する」っていうのは、一時的なものじゃなくて、一回あったらほぼ治ることなんてないと思うので。「目の前のことから逃げる」っていうのがなんかこう、D 君の言い方だと、「目の前のことから逃げる」ことが永遠に、生きてる間ずっと続くってことになるんで。それはまあちょっと。D 君の言い方だと「治る」ってことになるんで、ちょっとどうかなと思いました。

生徒 D: はいすいません、言い方間違えました。えっと、そんな感じが言いたかったんじゃないかって。多分この話だと病気に、てか、「意思が欠如する」前とする後の人格が変わってくる

思うんですけど、前の人格の判断と、その後の人格の判断が違うから、的なことを言いたい。言いたかったんですよ。

(D、Eにボールを投げる)

中川：うん。

(E、受け取ったボールを中川に渡すか迷うような動き)

中川：(Eに向かって) なんか言えることある？

生徒 E：ああ、えっと、また D 君が言ったのに、反論というかちょっと訊きたいんですけど。D 君は「意思が欠如する」前、正常な意思と、した後の、まあちょっと…ちょっと言い方が悪いかもしれないけど異常な考え方を持った意思っていうのは、まあその後の異常な考え方を持った意思っていうのは、まあちゃんとした…なんだろうな。その人の人権とか自由は認めない、っていうふうに。まあ俺としての捉え方としては、そういう感じの風に聞こえたんですけど、それはどうなんですか？

(中川少し手を上げるが、EはボールをDへ)

一同：(笑)

生徒 D：いや、

生徒 E：(中川に向かって) ああ、ちょっと質問で。すみません。

生徒 D：実はですね、実は苦い体験談になるんですけども。まず、あるところに、すごいゲームをしたい少年がいました。

一同：(笑)

生徒 E：誰かがね。お話の中で。

生徒 D：まず、そう。で、その次に、親に wi-fi 切られたりゲームを隠されたりしました。ぶちギれます。そしたら、その時のその少年は、未来の少年から見ても異常なわけですよ。もう「こいつ……やろ」みたいな感じなんで。

生徒 E：ああ。

生徒 D：それで、その時はまじでぶちギレて、あの、色々すごい頭ひねって、最終的に wi-fi 繋げる方法を見つけたりとか、色々その時はうまくいくんですよ。ただその後の、なんか「ゲームできたからハッピー」って感じで終わって、親とかが戻ってきてからぶちギレて全面戦争になって。その全面戦争が終わってからの自分が見たら「なんてことをしたんだ」的なことになるから。

なんていうんですかね、あの、ただ、経験論だから他人からの視点しか見れない…た、他者か、の、視点しか見れないけど。ただ、その時の異常な人権はあまり認めない方がいいかなと思いました。

中川：うん。え、緊張してますね。えー、リラックスしましょう。

あの、えっと、今あのだぶん D が言ってくれたのは、ええと、認知症の場合を一番最初、問いで認知症の場合が出たので、多分今の話が出たんじゃないかなと思うんですが。

ある昔の経験と今の経験が、人格として独立している感じがする。で、今の自分から見たら前の自分がなんかすごい変なやつで、で、その時の意見は認められるべきではないっていう意見を多分言ってくれたんですが。これは、この、まあ多分問いを考えるのに非常に重要ですし、多分今まで出た意見かなり色々な要素が入ってましたので、えっと、全て多分あの問いに答えるのにかなり重要な側面ではあるかなと思ったんですが。

えー、あの、みなさん思いだしてください。あの、『高瀬舟』です。テキストですね。テキストをちゃんと根拠にして。ちゃんとあるので。

僕なんか今まで話聴いてて気になったのは、あの、あれ、えー、「意思を考える力が欠如する」っていうことが、例えばこの場合。えっと、えー、喜助の弟の場合って、これってどうなります？これは「意思を考える力が欠く」パターン？

生徒 B: えっと、この時の、130 頁の 2 行目のところなんですけど。「弟の目は『早くしろ、早くしろ』と云つて、さも怨めしさうにわたくしを見てゐます。」というところなんですけど。なんかその前に弟から喜助に、「手を借して抜いてくれ」っていうのを頼んでいるんですけど。この文章では、弟から直接、喜助に言葉で「早く抜いてくれ」っていうのは言ってないんですけど、喜助が勝手に「目でそう言ってる」っていうような解釈してるんですけど。

これは、まあ「辛い」とか言えない、声に出したくないのかっていうのは私分かんないんですけど。この場合、「意思を考える力が欠如している」っていうのは、「意思を伝える力が欠如」していても言えることだと思っていて。意思を考えて、自分の言いたいことを考えていても、伝えることができなかつたら、まあ同じことかなと思ったので。この弟は意思を考えることが、考える力が欠如していると思いました。

生徒 F: この前には「口を利いて」って書いてあるんですけど。それはですね、普通に自分の意思で口を利いて「抜いてくれ」って書いてあると思うんですけど。

生徒 B: えっと、私が言いたかったのが、その…。(教科書をめくる。はさんでいたプリントが落ちる。B は拾わない。隣の生徒が拾ってひざに乗せてあげる。)
「弟の目は『早くしろ、早くしろ』と言って」っていうところに重点を置いていて。その「早くしろ」っていうのは、口から言っていない、けど、まあ喜助が勝手に解釈してる、っていうので。

えっと前の議論でも先生が言ってくれたんですけど。本当は、弟はそんなこと思っていないで、まあ兄が自分のことを思って「やっぱり医者を呼んでくる」っていうのを…「医者を呼んでくる」とか言ったりする決断を兄に任せていて、そういうことを伝えたかったかもしれないのに、勝手に解釈してるっていうのが言いたかったんです。

生徒 E: えっと、今の B さんの意見を聞いてちょっと思ったんですけど。この「早くしろ、早

くしろ」っていう目っていうものは、多分、あの、この前の段階、前の頁で喜助が「殺してくれ」っていうふうな、ふうに捉えられるようなことを言ってるわけじゃないですか。多分それ言わずに、多分今までと、この「殺してくれ」っていうのじゃない場面でこの目をして、多分どんな意味かは…どんな意味かっていうのは、多分喜助は分からなかったと思うんですよ。で、この前の段階で弟が喜助にむかって「殺してくれ」っていう自分の意思を伝えたからこそ、この「早く殺せ」っていうような目を、目を見てそういう解釈をしたっていうことが起こったと思うんで、それはちょっと「伝えられない」っていうのとはまた違ってくるような気がします。

生徒 D: えと、ちょっとあの、なんか補足的なことになるんですけど。解釈とかしなくても、あの 129 頁の後ろから 2 行目「弟はうらめしそうな目付をいたしました」っていうので、「うらめしそうな目付」っていうのは 130 の「早くしろ、早くしろ」のところで「さもうらめしようにわたくしを見ています」ってあるんですけど、目つきが同じわけですよ。だからその前の段階で恨めしそうな目つきをして、ほんで「『医者がなんになる、ああ苦しい、早く抜いてくれ、頼む』」で、抜いてくれっていうのは殺すって意味だから、殺してくれって言ってるわけだから。そのまま継続して、まあうらめしそうに見てるってことなら、まあ「早くしろ、早くしろ」っていうのは、別に解釈は間違っていないから、別に試してるとかそういうことにもならないと思うから。みたいに思いました。

生徒 G: えっと、まあ今のところにも繋がってくるんですけど、少し戻って 129 頁の 6 行目から、弟が「『すまない。どうぞ堪忍してくれ。どうせ治りそうにもない病気だから、早く死んで少しでも兄きに樂がさせたいと思った』」ということがあるんですけど。そこと、今の目が「早くしろ、早くしろ」と言ってるところでは、どっちにも弟がやっぱり、その時の、考えでないっていうふうに捉えられると思って。

だからさっきの D 君の wi-fi の話とかでも同じなんですけど、弟がその時のことしか、まあ自分のことしか考えてなくて。で、それからとか、もう他のことを何も多分考えてないんで、そこは「意思を考える力が欠如した」とやっぱり言えると思います。

生徒 H: えっと、私も G さん、G 君と同じ意見で。えっと、喜助の弟は自分が病気で、兄貴に、んーと、兄貴に面倒をかけたくないから、えっと自分の喉笛を切ったというところまでは自殺行為じゃないですか。そこは、あの、自殺…自分で、したわけで。そこからの、その苦しみの葛藤のところが、その喜助が安楽死させるか？という場面だから。その切って苦しくなってそこに喜助が現れたところからっていうのは、さっき B さんのアルツハイマーとか、あのさっき「異常な人格になってる」って D さんが言ったように、あの、そこからがこの葛藤の始まり。その苦しみ、そこからが「この苦しみを取り除いてくれ」っていう葛藤の始まりで。その、そこから考えると、その「何度もこんな風に言ってるんだから」、えーと。うん、さっ

き先生が言った問いに答えるんだったら、この喉笛を切る前までは、意思の判断ができる。アルツハイマーとかそういう特別な病気じゃないから、できるわけで。切った後からの苦しみってなったら、いち、あの正常な判断ができないってところになると思うんで。逆に裏を返せば、安楽死をする直前っていうのは、誰もが、その正常な判断ができてない状態なんじゃないかなっていうのを、この物語をもとにしたら、私はそう思います。

生徒 D: いやあの、細かいことになると思うんですけど、あの、別にその、あのなんて言うん。死のうと思った直前を、普通にちゃんとした判断とは多分言わないんじゃないかなと思って。だからあの、なんて言うんですかね。これって多分、どうせ治りそうもない病気だから早く死んで、っていうの普通に考えたら異常というか。あの、なんていうんですか。色々なんか思うことがあるわけじゃないですか。すごい、なんか兄さんが、ちゃんとすごい働いて、自分は働けないのに、しかも病気なのに働いてくれてて自分を養ってくれてて、すごい助けてくれるのに自分は何もできないじゃないか、って。そういうのがずっと続いてるんだったら、すごい精神的に負荷もかかるし。そしたら普通に、「俺はなんで生きるんだ」みたいな感じで。なんかすごい、まあ異常って言えるまで人格が変わるということでもないかもしれないけど、ただ何かあの、思考に何らかの要素が入ってきて、本来の精神的な負荷とか何もない状況の判断とかできないと思うから、やはり苦しみがどうかじゃなくても。だからそこらへんでちょっと異常なんじゃないかなと思いました。

生徒 I: えっと…、すいません。結構、最後の日の、えっとその、弟の、僕も小さいとき、おじいちゃん、いるんですけど。えっと、僕のおじいちゃんが癌で亡くなったんですけど。その時も、なんか僕の家族が、いわゆる、家族とかいる、で、迷惑とかかけて……とか行けないせいで。で、死んじゃったんです。おじいちゃん自身も、こう、自分たちにそういう迷惑かけて苦しかったり、なんかそういう表情とかあったり目とかしてるんですけど。それでも、なんか、まあ「死にたい」とかそういうことは言わずに、逆に「生きたい」ってのをよく言ってて。毎日「生きたい」っていうのを、迷惑かけてる人にこう、言ってて。

多分こう、自分が弱っていて、弱っているからといって、そういうの、意識が一切してないのはなくて、その、自分……。

生徒 A: 今言えなかったら、ちょっと回してもらったら。

(I、ボールをパスする)

生徒 J: えっとあの、なんか私の、『高瀬舟』からちょっと離れて。私の、お父さんとお母さんがなんか言うには、「もし自分たちが認知症とかそうやって、ちょっとボケの入る病気になっちゃって、そんで、その未来に、未来が、えっと未来の日本に安楽死を認める法律が出来たなら、迷惑をかける場合に殺してほしい」って、私はなんかその、まあどっちも両親から言われて。ほんで、えっとその、また母方の、え？ひいおばあちゃんか？ひいおばあちゃん、がも

う亡くなってんですが、認知症になって。ほんでなんかまあ、最初は全然大丈夫だったんですけど、やっぱりなんかお母さんが会いに行くたびに「あんた誰？」とか言われてたらしくて。でも、その、なんやろ。最近のことは忘れてても、なんか自分、そのひいおばあちゃんが20歳の時とかいう若いときの記憶はすごい覚えてるらしくて。なんかこう、そのへん、20代とか若い時はこうやったんやで、とかすごいしゃべってたみたいで。

なんかその意思が、認知症っていってもう意思がやっぱり途切れてるから、やっぱり分かってないっていう面もあるけど、その、簡単に？なんか殺しちゃうっていうのはやっぱりよくないなあと思って。その人自身が、えっと私の両親みたいに、まあ意思がふつうに働いてる状態で「もしなっちゃったら殺してね」っていう感じで、意思がちゃんと正常に働いてる時は、まあ、えっと別に、私はもしそうなったら、もしあったら、安楽死があったら、私はすすめると思うし。で、えっとそのひいおばあちゃん自体も、なんか、なんやろ。意思が衰弱してても、その昔の話とかそうやって覚えてるところもあるから、そこはやっぱりなんか、アルツ、認知症やからということで簡単に殺してしまうのは、私は、やっぱ、話が矛盾してるかもしれないけど、したくないなあと思いました。その、両親の話を聴いて思いました。

生徒 A: Jさんの意見に結構全面的に賛成で。このまえ、認知症の番組を見たことがあるんですね。高1の時に認知症になったっていう奥さんがいて。それでまあ色々忘れて、それを夫が注意して。それを何回も注意されてるうちに、奥さんのほうが、なんかこう「怒られてる」っていうふうに受け止めるようになって。でまあ、家にいるのも辛くて、急に自転車で逃げ出したりしたのが、もう夫には分かんなくて。なんか奥さんも「生きるのが辛い」とかそういうふうに言って。そこだけ見たら普通にまあ「生きるのが辛い」っていうのも分かるんですけど。でもさっきやっぱりJさんが言ってくれたように、仮に認知症とかになったからといって、別にモンスターになるわけじゃないですし、人には人の心があるわけじゃないですか。考える力は欠如していても、少なくとも感情とかはあるはずなんです。死にたいとかそういうことを簡単に言うってしまうのは、『高瀬舟』でいう、喜助の弟が「ああこれ迷惑かけてるわ。もう俺死ぬわ」ってなるのは、まあ、誰かが言ってましたけど自分のことしか考えてないので。普通に考えることができるなら、自分が死んだからって喜助が喜ぶわけじゃないってことくらい分かるはずなんです。だから、正常に考えることができなくてふうには見えますけど。でも、それでも「兄に迷惑をかけたくない」という感情が働いてるじゃないですか。

だから、そういう感情があって「死ぬ」って考えてるわけなんで。だからといって殺していいのかって言われたら違いますけど。その人の感情を尊重しつつ、それが本当に理解できたなら、まあ安楽死させる方に行くんじゃないかなと思いますけど。でも、やっぱりまずは、その人が何に苦しんでるのかを見て、これ以上生きるのは本当に辛いんだなって判断できたら、まあ安楽死をさせてあげたほうがいいんじゃないかって俺は思います。

じゃあ、K君あんましゃべってないので。

生徒K: まあ認知症の場合は、僕も、僕自身が認知症なわけじゃないから、その認知症になった場合のことを考えるのは難しいんやけど。喜助の場合は、自分が生きていても何も影響を及ぼさないことを自分で悟ったから、もう死ぬというような手段を自分で選んだのかなあと思うんですけど。まあその理由としては、今「人には人としての心がある」っていうふうにA君が言ってくれたけど。

僕、実際その認知症の状態とかが末期のほうに近づいていったら、もう自分は何も、人を見てもその感情を思いださないわけで。もう自分のお母さんとか娘とか息子を見ても、誰か分からないっていうのは、その息子の元気に育った姿とかを自分が分からないわけで。で、まあ人が来るけど誰かが分からないし、その人に対して何も感情を抱かないし。で、何か楽しみがあるかといってもないし、っていうふうな状況になった時に、自分が、その、生きていたところで、何か息子・娘が喜ぶことがあるかっていうと、それを「無い」と感じたのかなあって。その「死にたい」と思った人は。思ったかな、というふうに思っただけ。

まあその喜助の場合は自分の意思がはっきりしてるから…その、えっとお兄ちゃんでしたっけ。喜助の弟の場合は、はっきりしてるから、喜助を見てもお兄ちゃんだと分かるし、働いてくれると分かるから、それで伝えたんだと思うけど。まあえっと、多分認知症の場合だったら…そこ…。実はちょっとまだ、完璧にまともってわけではないけど、自分が生きていて何か起こるか起こらないかというのを悟ったら、人は「死にたい」というふうに言うんじゃないかなあ、今ふと思いました。

中川: えーと、今ずっと話を聞いてて。うーん、その、今多分JさんもAくんも多分言ってくれたと思うんですが、そのためらう感じはすごくよく分かります。で、僕も5クラスですずっと議論して色々考えてきたんですが、あの、その「ためらう感じ」っていうのは、結構正しいんじゃないかなと思ったり。色んなエピソードがあったんで。

で、あの、えー、何を言おうと思ったんやったかな。…えー、まああの、その状態でその、はたしてどうするかっていう、問いは「意思を考える力が欠如した人は、安楽死させるべきか」なんですわね。

まあせっかくなんで、あの、できるだけ多くの人にしゃべってもらおうかなっていうことなんです。(Dの方を向いて笑顔で) ちょっと黙ってもらって。はい。まだしゃべってない人、どうでしょう?じゃあ、Lくん。

生徒L: えっと……。えっと僕は、えっと認知症の人と、えっと喜助はまた違うと思って。まあ認知症の人って何をやっても全て忘れるから、常に頭の中が何もなくて。まあ言ったら失礼なんですけど。まあ言ったらそんな感じで。まあ簡単に言えば常に孤独なわけで。喜助はあの、お兄ちゃんがいる、存在があるから今までやってこれたっていう感じなんで、やっぱ、こうい

うふうに。だから認知症の人と喜助は、ちょっと違うんじゃないかと思います。

生徒 H: えっと、その、Jさんとか A 君が言った、その、Jさんはおばあちゃんが昔の話もまだできるから、とか、A 君はたぶん、本人の意思を尊重？みたいなこと言ってて。もうその考えかたって、もう実は、その人の、そのアルツハイマーの人の、人自身の考えじゃなくって。あの、アルツハイマーの人が身近にいる、とか、その、その周りの人が、その人をどうさせてあげたいかっていう考え方にもうなってると思って。だからそのつなぎ。

えーと、あ、安楽死っていうのは、なんでだめなのかっていうのは、そのまあアルツハイマーの人とかが、もう死んじゃえば、死んじゃえば終わりだけど、それを判断した、決めたりとか、それをあの認めた？認めた周りの人の、心に傷が残るから、だめなんじゃないかなと私は思ってます。そのまあ生きるか、生きる。その自然に死んだんじゃないで、「まだ生きれた」っていうのがあるっていうから、そういうので後悔するからだめなんじゃないかっていうの。そういう側面もアルツハイ、え、安楽死は持ってると思って。

あの、「意思を欠如した」っていう例でちょっと昨日考えて。ペットとかどうかなあと思って。言葉絶対話せないじゃないですか。で、ペットの安楽死について考え、あの調べたら、なんかその基準があるらしくて。なんか「苦痛」と、「苦痛」と…（手元の紙を見る）「空腹」「水分補給」「衛生」「幸福」「可動性」「いい日と悪い日の数」っていうのを、あの飼い主と、医者が、観察するんです。観察して、得点をつけて、まだ高ければなくていいってなるんですけど、どうも低いようだったら、させてあげなきゃいけないっていう。

その、やっぱりその、安楽死っていうのは、周りから見た人の心にそういう…あの、周りから見た人の心の問題だと思って。だから、その「意思を考える力が欠如した人は、安楽死させるべきか」っていうのは、その本人の気持を考えてもどうも、あの、どうしようもならないことってあると思うんで。当事者意識を持ってないっていうのもあると思うんで。ちょっと周りから見た人の判断がどうなるのかっていうのも考えたらいいかなと思います。もしなんかあの、ペットの安楽死とかさせたことある人がいたら、その人の意見も聞きたいなと思います。

生徒 J: えっと、あの言いたいことが、あ、Hさんの話を聞いて言いたいことが、まあ二つあって。

まず一つ目の話は、えっとその、えっと…、ああそうそう。なんか、えっと、今の、あー、「安楽死をもし認めたら」ってことを、前お母さんとなんかしゃべって。なんかまあ、安楽死が認められれば、認められれば、さっきも言ったように、「認知症が、なったときに迷惑かけずにすむね」って言って。ほんで、今の、なんか、前……君がなんか色々言ってたんですけど、今のなんか医療って発達しすぎて、逆になんか長生きさせちゃう？みたいな。なんか今ほんまに少子高齢化が進んで、でなんかもう、あの、おじいちゃんおばあちゃんがめっちゃ多くて、で子どもが少ないみたいな、なんかそういう世界、あ、社会がめっちゃ進んでるけど。

やっぱり、医療が進みすぎるっていうのもよくないなって思って。その進みすぎたら進みすぎた分、やっぱり見返りっていうのが返ってくる。なんか今、ほんまになんか、認知症の人が、えっと4人に、65歳以上の人が4人に1人いるって先生が言っていたみたいに。やっぱりなんか、まあそれもそれで、ひどいなーって。逆に何か、今苦しいのに生かされて、ほんでなんかあの、逆にこっちはしんどいのに、死にたいのに、なんで生かされんねんみたいな感じで。多分。えっと、もし苦しい人とかやっぱり、透析とかしてる人とかやったらやっぱり、そう感じちゃうのかなって私は思いました。

で、あと二つめがその医療の、ああ、動物の話なんですけど。まあうち、知ってたと思うけど、知ってたっけ？まあ親が、動物病院、獣医師だから。そのお父さんと話をした時に、動物、ペットって安楽死認められてて。だいたいその、飼い主が殺してくださいっていったら、獣医師のほうは、一応、あのまあ、うちのえっとお父さんの仕事の、まあ病院のほうでは、あんまり認めてないというか、なんか、したくないけど。その、もし、あのほんまになんか、まあ自分というか、ああちゃうわ。してくださいって言ったら、お金は別料金として、あのちょっと高くなりますって、まあなってるんですよ。そんでお父さんのほうからも、やっぱり最善の手を尽くしましたが、やっぱり生かすか、それとももう、まあなんていうか、ちょっと、安楽死の手がありますっていう感じで、まあほんまに少ないけどそうやって紹介する時があって。なんかあの、ちょっと話を聞いてて、私が一番ひどいなって思ったのが、なんかあの、家を買って。ほんで、まあなんか犬を連れてて。ああ家を買ったんですけど。その家が、家自体が、なんかペット禁止のマンションで、でも買っちゃったから、犬飼えないから殺してほしいって言われたらしくって。で、お父さんは「はあ？」ってなって、ほんでそれはもう否定というかあの、「それはできません」ってあのなんか言ったんですけど。その話を聞いて、すごい、犬も命があるのに、なんで、そんな簡単に、人はこう、なんでそんな簡単に殺せるんやろうなって思って。

で、でもなんか、この話、安楽死の話を聴いてて、やっぱりその殺す。まあ安楽死も、やっぱり殺すことだから。だから、簡単につて言ったらちょっとあれかもしれへんけど、なんか、なんやろうちょっとまた話がなんか繋がってくるのかなと私は思いました。

生徒 D: えーとですね、多分、もうなんか、もう多分そろそろ当てられないんじゃないかなと思って、悔いが残らないように全部最初からいきます。

えっとですね、あのD君が、たぶん順番ごっちゃになるんですけど、D君が「アルツハイマーは記憶がない」とか言ったんですけど、それは多分分からないから。アルツハイマーって別 meaning が気絶して、え？欠如したのは違うっていったのは、まあその判断はちょっと違うと思って。

あとその次、A君が言ったあの、なんていうんですかね、あの、妥協案的なやつ。その本人の意

思を尊重しながら、するかしないか決めてくみたいなのやつなんですけど、その判断っていうのは人の生死に関わってるわけ、関わってるわけだから、そういう重い判断を普通の他の人がやって…、裁判とかでもやっぱりえん罪が起きないように何回も裁判できるし、再審って言う制度があるじゃないですか。だって死んじゃったら、終わりだから。その人の自己はないわけだから、もう。だからそういうことがないように、別にその本人の意思を尊重したら駄目だし。てか、その、多分その今の僕の意見が、多分、最初に言った C 君の、あの、その「異常な時のその人の人権は無視する」的な話に繋がってくると思うんですけど。僕は多分全面的にその人の、今異常な人の意見を無視する、と思って。で、あの、その体は結局、元々の正常な時の人のもので。

異常かどうかっていうのはまあ、色んなまあなんか要素が関わってくるんだろうけど。例えば僕が、初対面の、すごいもう普通の人に囲まれたところに、てかいい人に囲まれたところでも一つと育ってきた人と多分初対面で会ったら、「異常な人」と思われるわけです。ただ、君たちからしたらもう多分慣れてるかしらないけど、そこまで異常ではないっていうことで。

生徒 D: まあ、自分そのことに関しては理解してるけど、まあ納得はしてないというか。まあそのことは置いて。

まあなんていうんですかね。あの、その時に異常な判断してるかとか分からないわけだから、結局、えん罪とかみたいな間違いを起ささないように、まあ自殺もそう。勝手に自分の判断、その時の判断で、あの、なんていうんですか、その時の判断でもう終わらせないために、自殺もたぶん勧めないみたいなことなんで。じゃあ、その多分「終わらせない」とかなんでそんなこと言えんの、って言われたら、後悔っていうものがあるからだと思います。これでいいや。

生徒 M: えーまだ、もう、ちょっと言ってたこともあるんですけど。

僕はまず一つは D 君に反論で。やっぱり、やっぱりなんていうの、その意思が欠如したからといって人権を否定するのはあんまりよくないと思って。まあ重度の、その、まあアルツハイマーとか、そんなん、そんなん完全に死にたいとか大声で言って発狂してるような人だったら、まあ若干、否定はするかもしれないですけど。まあ、まだそこまで重度じゃなくて軽度で、ある程度まだものが考えれたり、まだその程度なら、その、まだその人の意見、まあ死にたいとか、死にたいか生きたいかはまあその人によりますけど。まあその人を尊重したほうがいいなっていうのと。

えー。さっきペットの話が出たんですけど、与えられた命がたまたま犬や、犬、その命がたまたま犬であっただけで。まあその、さっきの安楽死では得点をつけるとかそんなん、で、マンションで飼えなくなったから安楽死させたんだって。まあしといてくださいっていうのは、犬からしたらまあ、たまたま言葉が話せないだけだから、たまたまもんじゃないかって。ま

あそれもある意味、さっきの人間と一緒に、人権を否定しているっていう感じになるんじゃないかなと思う。

で、そのまた別の話になるんですけど、えっとその医者。えー『高瀬舟縁起』やったらですね、医者は人を助けるじゃないですか。で、その助けて、まあ入院とかさせて、で、まあある程度痛みを、痛みから解放するとか楽にするとかっていうのがあると思うんですけど。その後、安楽死を家族とかがさせてくださいとか言ったら、道徳的にはまあ、安楽死はさせずに、まあ苦しませておけて確か書いてあったと思うんですけど。それは、もう医者は、それは矛盾していると思って。医者がして助けて、で、その後、痛みから解放してあげたのに、またそれに、もうこれは無理ですってなったら苦しませておけていうのは、ひどいんじゃないかなと僕は思います。

生徒 A: えっと、今の、今の反論と、D の主張では、視点が違うんじゃないかなと思ったんですけど。D が「人権無視した方がいい」って言ってるのは、別に認知症になったからといって、「ああこれもう人じゃねえな、人権無視してもいいな」とかそういう考えじゃない、ないと思って。ふつうに D は、えっと感情とかもう何もなくなって、何も考えることができなくなったような、まあ言ってみれば「しゃべれる植物状態」みたいな、そういう状態の話をしてるんだと思って。まあ決して軽度な認知症やアルツハイマーの話をしてるんじゃないと思うんですけど。

だから、D が話してるのは、もうそうやって…うん？違う？

生徒 D: 違う。

生徒 A: 違うの？！

一同: (笑)

生徒 D: いやですね、「人権を無視した方がいい」っていうのはだから、僕は、あの、「意思を考える力が欠如した人の人権」というのじゃなくて、そういう「人が、自殺とか『死にたい』って言う人の人権」を無視した方がいいって言ったのであって。

そういう死に、なんかあの、多分僕のこの主張の中には、根本的にあの、「一秒前の自分と一秒後の自分は、今の自分と違う」ということが入ってると思って。なんか色んな要素が周りに変わってきてるわけじゃないですか。もうなんか色々やってると思うんですけど、ここに人がいたのにいなかったとか、そういう要素は、まあそのとき一瞬しかないわけで。その要素っていうので思考してるわけだから、まあ自己が変わってくるとか、まあそれはまあ僕が、そりゃまあ僕が、正しいかどうかは分からないけど信じてるものであって。で、まあそれがあるから、その自殺、今「死にたい」と言った自己と過去の自己というのは同じかどうか分からないから、まあ色んな要素で考えた最終判断をその人に、というかその、そいつにさせて、んで最後にまあ死ぬのか？みたいなのは、まずその判断を実行させればいいいわけで。死ぬっていうのは、そ

の先の再審というのがなくなるわけです。だから、その行為自体が、まあなんかあの、色んな視点から考えることができなくなるから、そのそういう判断をした場合は、まあなんかとりあえずそいつの人権を全部否定したらいいって話ってことです。

中川：はいじゃあ、えー持論はもう以上で。

てか、今、しゃべりたい人手あげて。しゃべりたいやつ、手挙げろ。今いたら、はい、はい、（手を下ろした生徒を見て）いや手挙げたやつ、手挙げろ。はいじゃあ、その人の場所に今ボール回します。はい。

生徒 K：えーと今、『高瀬舟縁起』の、その「苦しませておけ」っていう風な表現に多分みんなとらわれてるんじゃないかなと思うんですけど。まあその、安楽死をせずにいきなが…、その人を生きさせておくのが、苦痛以外の何でもないっていうふうな前提が、まあなんとなくみんなのなかにあるような気がして。

その安楽死をさせずに生きておさせるっていうのは、苦しみを与えるだけじゃなくて。まあその安楽死するっていうことは、希望も捨てることになるから。その、やっぱり人生の中で後悔っていうのは、たくさんみんなもこれからしていくと思うし。「10年前にああしとけば今こうじゃないのになあ」とか、後悔は色々あると思うけど。さっき D 君が言ってくれたように、死んじゃったら何もなくなるわけであって。死ぬっていうのは最大の後悔というか。死んじゃってから、「あのとき死ななければよかった」っていうふうなことは何もできないから。だからそれをやってしまったら、もう何もなくなっちゃうし。そのこ、後悔？後悔ってそもそも言えないから。死んじゃった時点で。だからまあそこを認め、認めてしまったらいけないから、多分今日本では禁止されてるのかなあっていうふうに思ったのと。

あ、はい、そこです。自分の論点は。

生徒 N：んー、やっぱやめとくわ。

生徒 O：えっと僕は、D 君の反論というかまあちょっと。D 君が、異常な、なんか異常な意識を持って「死にたい」って言ってる人は、そのあ、えっと意見は尊重すべきじゃないって言ったんですけど。

んっと、僕は異常な意識があるからこそ、その人の意思を尊重するべきだと思って。まあそもそも認知症の人って、まあ高齢者は4分の1なんですけど、そのなかでも死にたいとか自殺願望がある人ってごく一部じゃないすか。その中でまあ異常な意識を持つことは、相当精神的に負荷もかかっているから。その人の意思を尊重しなければ、ちょっと後からなんか、後からまた後悔することになると思うんで。異常であるからこそ、意思を尊重すべきではないかなと思います。

生徒 A：えーと、ほとんど僕の言いたいこと言われちゃいました。だからもう、言うことも特にないんで、（時計を見て）終わっていいすか？

中川：じゃあ、せっかくやから、一人だけ、しゃべってない人いこう。誰でも。

生徒 A：しゃべってない人？

中川：誰でもいい。そんなみんな、え、それはちょっとあれやな。誰でもいい。

生徒たち：誰でもいい。

生徒 A：誰でもいいって言われても。じゃあ、ねえ。

生徒 P：え、なんすか。これでなんか、自分の意見言っているんすか。もう、なんていうん、その、自分は、まあさせないべきやと思うんですけど。まあ理由は、そのなんていうんですか？ 意思、意思？ 意思？（黒板をふりかえって）意思やね。意思を、その、意思をなくした人は。なんていったらいいん。意思をなくした人は、だから、意思だけなくなるんやないやないですか。なんていったらいいんですか。だから、意思、その人間は、意思だけを欠けていた、欠けているけど、ごはんとかまだふつうに食べられるから。その、まだ生きさせておいて。うーん、なんていったらいいん。その意思是、意思だけが欠如しているから、それだけで。ご飯が食べられるけど、そのご飯を食べるのに意思とかあんまりいらなないと思っから、その、生きさせる。させないべきやと思います。